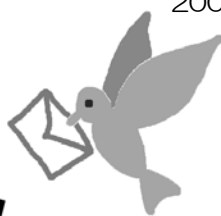


笑顔こぼれる みんなのミニ情報誌



2 月号

ほほえみ Hohoemi

ぽすと Post



止揚 - 矛盾のマネジメント -

こんにちは。近藤です。今月は一冊の本を紹介しします。田坂広志さんの著作、「未来を予見する5つの法則」です。

ここで第五の法則として、「矛盾」とは世界の発展の原動力である」と述べられています。

すべての物事には、その内部に「矛盾」が含まれているが、その「矛盾」こそが、物事の発展の原動力となっていく。そして、この「矛盾」を機械的に「解消」するのではなく、それを「止揚」したとき、ものごとは発展を遂げる、というのです。すなわち、世の中の物事が変化し、発展し、進化していくのは、その物事の中に「矛盾」があるからである、と。

たとえば、企業経営における「利益追求」と「社会貢献」の矛盾。企業である限り、我々は日々「利益」を上げていかなければならない。しかし、一方で企業の「社会貢献」も大切にしなければならない。優れた企業は、この「矛盾」への処し方が見事である、マネジメントの本質は「矛盾のマネジメント」である。では、それはどのようなマネジメントだろうか？

「割り切らない」それが、「矛盾のマネジメント」の要諦である。たとえば、もし、「企業にとっては、利益追求がすべてだ」と割り切ってしまうと短期的には業績が上がるかもしれないが、社会からは「志のない企業」と見られ、社会的評価は下がっていく。一方で「企業は社会貢献がすべてだ」と割り切ってしまうと、足元が疎かになり、利益があがらなくなるため、企業として存続できず、高邁な理念も実現できなくなってしまう。

これは企業だけでなく、市場や社会を含む、この世の中すべてに当てはまる「理」（ことわり）であ

る。では、どうすれば良いのかだろうか？

弁証法的な「止揚」をすることである。

では「止揚」とは何か。「止揚」とはドイツ語で「アウフヘーベン」のこと。それは、互いに矛盾し、対立するかに見える二つのものに対して、いずれか一方を否定するのではなく、両社を肯定し、包含し、統合し、超越することによって、より高次元のものへと昇華していくことである。

たとえば、「利益追求」と「社会貢献」の矛盾。この二つの矛盾を「止揚」するとは、「利益追求」か「社会貢献」かの一方を否定し、一方を肯定して「割り切る」のではなく、この両者を肯定し、包含し、統合することを目指す。「企業は、まず、本業を通じて社会に貢献する」「利益とは社会に貢献したことへの証である」「企業に多くの利益を与えられたということは、その利益を使い更なる社会貢献をせよとの、世の声である」この「日本的経営」の言葉は「利益追求か、社会貢献か」という二項対立として捉えるのではなく、まさに両者の矛盾を「止揚」した経営哲学として深みを持っている。

「矛盾の解消」ではなく「矛盾の止揚」の視点に立つならば、経営者はマネージャーは企業の現場において、具体的にどのようなマネジメントを行えば良いのだろうか？

端的に述べると、それは「振り子」を振ることである。互いに対立し、矛盾するものの中で「振り子」を振り、バランスを取ることである。

私はこの「止揚」という言葉を年頭の目標として掲げ、色紙に書き込みました。少し難しいように思われますが、混沌とするこの時代こそ、「止揚」的な考え・行動が必要なのではないでしょうか。

～広報コーナー～ ✨ キラリと光る存在に ✨

2009年1月23日(金) 18:00～20:00

5S活動発表会

国際業務部 髙原カルソソジェイさんからコメントをいただきました。



1月23日に第2回5S活動の発表会がありました。第1回の発表会よりも格段にレベルが上がり、どのチームも真剣に取り組んでいると感じました。今回の発表会はよかったです。この現状に満足せずにもっと創意工夫をし、外部の方々でも見たいと思うような発表会を目指していきたいと思いました。



心〇心のリレーエッセイ ～次はあなたの出番です～

◎ “感” ◎



国内部品課で主に配達をしています、本田良子です。

早いもので、2009年を迎えてから一か月が経ちました。会宝産業では仕事始めの日に、今年一年の抱負や目標を色紙に書くのですが、私は忘れないようにしたい言葉として“感”という字を大きく書きました。“感”には三つの意味がありまして、感謝・感動・感心の“感”です。

まず一つめの“感謝”は、元気に仕事ができることに、知識を与えてくださったり力を貸してくださる先輩に、「元気？」と電話を掛けてきてくれる友人に、そして家庭と仕事の両立をバックアップしてくれる家族にいつも忘れずにいたいと思います。

二つめの“感動”には、こんな話を聞いたことがあります。人は感動をして成長する、つまり感動しなくなるとそれ以上にはなれない。その通りだと思いました。

三つめの“感心”は、周りの人のいいなあと思うことは真似て自分のものにできるよう、素直な心で仕事に取り組みたいと思います。

こんな私は今年、年女です。闘牛のように突き進みたいと思います。

・今月の出番・

国内業務部 国内部品課

本田良子さん

プロの手ほどきで美肌を目指す

実年齢と肌年齢の差は人それぞれ。遺伝的に肌が強い人もいますが、肌年齢を左右する一番の要素は日頃のお手入れでしょう。そのお手入れも、肌の状態や年齢に見合った方法で行わないと効果半減です。

今現在の肌のコンディションは1ヶ月前の生活の結果だそうです。年々ナイーブになっていく肌を生き生きと保つためには、自己流のお手入れを見直すことも必要かもしれません。

自分の肌に合ったお手入れ法を知るには、化粧品カウンターでアドバイスを受けるのが手っ取り早いでしょう。けれど、何も買わずにアドバイスだけでも

らうのは気が引けますね。そこで利用したいのが、文化センターなどで開催されているスキンケア教室です。これなら気軽に参加でき、専門家の豊かな知識と確かな技術をもとに肌の磨き方を学べるでしょう。

プロの手ほどきで肌に自信が持てるようになると気持ちも前向きになります。毎日がさらに充実しそうですね。



こんなときどーする!?

年中行事から

冠婚葬祭まで

~やっぱり気になる「厄払い」~

「なんだか今年は災難が続くなと思ったら、厄年だった」こんな話を身近で聞いたことがあるかもしれません。普段はとくに信心深くない人も、厄年はなんとなく気になるようです。一般的に男性の本厄は25歳、42歳、61歳、女性の本厄は19歳、33歳、37歳といわれ、それぞれ前後の年を前厄、後厄と呼びます。

もともと厄年は、その年齢に達した節目ごとのお祝いだったという説もあります。氏子として「役」を担う立場の年齢を迎えたことを祝い、そのために身を慎むように作られたのが「厄年」だったとか。その意味では七五三も厄年と考えることがあります。

厄年に科学的な裏づけはありません。しかし、厄年の前後3年間は

心身ともに曲がり角な上に、社会的な責任も大きくなる時期。人生の節目の年齢なのは確かなようです。忙しさにかまけて健康面をおろそかにしたり、気持ちの余裕をなくして思わぬ事故に巻き込まれたりしないよう一層気を引き締める。そんな意味からも厄年を意識するのは大事なこともかもしれません。



ある雑誌の調査では約7割の人が厄払いをしたそうで、そのほとんどが軽い気持ちで自宅近所の神社やお寺に行ったとか。「深刻には考えていないけれど、保険をかけるつもりで」という感覚の人も少なくないようです。旧暦の頃は数え年のお正月に厄払いのお参りをしたそうですが、現在は満年齢の誕生月に行くことが多いようです。

車輛課からの お得な耳寄り情報



冷気をシャットアウトする暖房術

部屋は充分暖まっているはずなのに、色系と青っぽい寒色系では体感温度がなぜか足元が冷えて背中がゾクゾクする。2～3℃も違うそうなので、暖かみのある色を選びたいものです。

これは「コールドドラフト」によるものです。また、窓辺の冷気が吹き降ろすのを防ぐために、ファンヒーターなど暖房器具は窓の下に置くことをおすすめします。この現象は、暖かい室内に冷たい空気が流れていくために、ファンヒーターなど暖房器具は窓の下に置くことをおすすめします。この現象は、暖かい室内に冷たい空気が流れていくために、ファンヒーターなど暖房器具は窓の下に置くことをおすすめします。

コールドドラフトによる冷気をシャットアウトするには、カーテンをできるだけ厚手のものにしましょう。サッシの内側だけでなく、外側から窓枠をすっぽり包み込むサイズがベストです。

カーテンレールを覆う「カーテンボックス」をつけると、さらに効果的でしょう。

カーテンの色も重要です。赤っぽい暖



08年12月の車両処理実績			
フロンガス	破壊	Kg	146
	再利用	Kg	
エアバッグ	個		347
廃オイル	リットル		4,750
LLC	リットル		2,400
入庫台数	一般	台	836
	投棄	台	
処理台数	台		782
廃車ガラ量	トン		412

今月のクレーム

『見えない歪み』



皆様こんにちは部品課の大森です。

今回は、センターマフラーの件でお客様にご迷惑をお掛けいたしました。

内容としましては現車から取り外した部品を取り付けたところ歪んでいたというものでした。現車が事故車というところもあったのですが、現車にはきれいにしているように見えて実は曲がっているというもので、正常な車に取り付けると、取り付け位置が合わないというクレームでした。

また今月は別件でプロペラシャフトでも同じ条件でクレームを出してしまい、大変ご迷惑をお掛けいたしました。

事故車に関して改めて商品の形状、商品知識について勉強させられました。お客様の声を大切に、より良い品質管理を目指します。

部品課では毎週1回、起こったクレームを1件1件リストにまとめ、クレームミーティングを行っています。どうすれば間違いなくお客様に商品をお届けできるか、そして喜んでいただけるか、日々改善に取り組んでいます。

会宝産業株式会社 金沢市東蚊爪町1-25
 部品課TEL 076-237-5138
 FAX 076-237-6090
 E-mail kokunai@kaiho.co.jp
 車輛課TEL 076-237-5133
 FAX 076-237-1950
 E-mail info@kaiho.co.jp

